



岐 岐 岐
阜 阜 阜
高 高 中
校 女 学



校 校
援 援
歌 歌

平成29年6月

「校歌」「応援歌」。口ずさめば、一瞬にして学生時代が蘇り、連帯感を実感します。校歌は岐阜中学校、岐阜高等女学校、岐阜高等学校へと受け継がれてきた、かけがえのない伝統と歴史の抛り所でもありません。一部はかつて、先輩が記憶をもとによりやく復刻され、大きな反響を得たと伺いました。

岐阜中学卒業生で、岐阜高女との合併時に岐阜高校教諭でもあった吉田豊氏（91）によると、「岐阜高女同窓会の鷺見英子さんから、岐阜高女で歌い継がれている『姫小松』をいつまでも歌ってほしい。そして私たちの同窓会館を移築してほしいと言われた。同窓会館は岐阜市雲雀力丘から堤防を曳いて移築し、卒業式などには必ず姫小松も歌った」とのことです。同窓会館は老朽化とともになくなり、姫小松も岐阜高女からの指導者がいなくなって歌われなくなりましたが、厚い想いのこもった愛唱歌に違いありません。

今回は、11年前に製作された校歌、応援歌の楽譜を改めて製作し、今総会に参加された皆さまに配布させていただくことにいたしました。

同窓会総会の開催を記念し、伝統に思いを寄せ、歴史をつなぐ後輩への願いを込めて、歌詞と楽譜集を作成いたしました。抛り所を守り伝える一助となればと願っております。

岐阜県立岐阜高等学校校歌

松平 静 作詞

伊藤 栄治 作曲

♩ = 約 100

せんじんのたけ まんかさん ゆくりのみす はがらがわ
かかいのなみ あらくとも きほうのきし とおくとむ

かぶつのはんじ さいごうおおしく かくせつふとう つとめてます
かぶつのはんじ さいごうおおしく かくせつふとう つとめてます

ふる ～ ふる ～ ほころきいののれきしある わがこうにうの

ほまれもほあけよとろびともろとむに

岐 高 校 歌

千仞^{せん}の嶽^{たけ} 金華山

百里の水 長良川

華陽の健児 ここに生まれて

国家の為に 明け暮れ学ぶ

学海の波 荒くとも

希望の岸 遠くとも

華陽の健児 心雄々しく

百折不撓^{とつ} つとめてやまず

奮へ 奮へ

誇る最古の 歴史ある

我が高校の 誉れをば

挙げよ諸人 諸共に

「岐高百年史」によると、明治38年より校歌懸賞募集したが当選作がなく、明治45年1月～3月に完成したとみられます。作詞は、国語の松平静教諭、作曲は唱歌指導の伊藤栄治教諭。冒頭の「千仞の嶽」は、「せんじんのたけ」であり、大変高い山を示します。マーチ風に歌うので「せじん」となります。

華陽の健児

「華陽」は金華山の南。名山であり信長の居城があった金華山の南に当時の岐阜中学があり、その生徒を示します。

百折不撓

何度倒れ挫折しても、諦めない心。

応援団々歌 (その一)

mf ♩=88

きんかじょうとう つきさえて ばんしょうすべて

しじまなり がいせのえいゆう のぶながの

mf ゆうとのあーとに こけむし ぬ

応援団々歌 (その二)

一、金華城頭月冴えて
蓋世の英雄信長の

万象すべて沈黙なり
雄図の跡に苔むしぬ

二、嗚呼熱血児信長の
ありし昔を偲びては

覇業は夢と消え果てど
健児無量の想ひあり

三、熱血受けし一千の
桜の香り身に沁みて

心一つの健児等が
根城構へて百三十余年

四、悲壯の風の吹き荒び
校の徽章の桜花

混濁の波逆巻けど
身もて護る健児団

五、如何なる敵の迫るとも
破邪の剣をぬき立てば

寄せ来る仇は多くとも
竜車に向う蠮螋ぞ

六、敵に鬼神の勇あるも
我には紅き血潮あり

仇に天魔の計あるも
からくれなぬを見ずや君

七、さはある心せ同胞の
桜の花の散るあらば

香りは永き百三十余年
散るその下に死なん哉

八、誘ふ嵐に散らされず
朝日に匂ふ桜花

尽くせし心の現はれて
その花の下に我れ立たん

蓋世

世を覆い尽くすほどの気力

雄図

優れて大きいばかりごと

竜車に向う蠮螋ぞ

強者に立ち向かう弱きもの

からくれなぬを見ずや君

血潮の深紅の色を君は見るに違いない

凱 旋 歌

たいざんれいとー きゆるとも わがみにいきおし なかりせば

mp~f

The first system of the musical score for '凱 旋 歌'. It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is in a treble clef with a key signature of one flat (B-flat) and a common time signature (C). The lyrics are 'たいざんれいとー きゆるとも わがみにいきおし なかりせば'. The piano accompaniment is in a grand staff with a key signature of one flat and a common time signature. It features a melody in the right hand and chords in the left hand. The dynamic marking is *mp~f*.

ちかってそうしに まみえじと い で しかようの けんたんじ

mf~ff

The second system of the musical score for '凱 旋 歌'. It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is in a treble clef with a key signature of one flat and a common time signature. The lyrics are 'ちかってそうしに まみえじと い で しかようの けんたんじ'. The piano accompaniment is in a grand staff with a key signature of one flat and a common time signature. It features a melody in the right hand and chords in the left hand. The dynamic marking is *mf~ff*.

凱
旋
歌

一、泰山^{たいざん}厲^{れい}と消ゆるとも

我が身に^{いさおし}功なかりせば

誓^{ちか}つて桑梓^{そうし}に見え^{まみ}じと

出^いでし華陽^{けいよう}の健男^{けんなん}児^じ

二、されど見よ見よ今はこれ

身に大功の光そへ

姿を変へて悠々と

我が大丈夫^{ますらお}は帰り来ぬ

泰山厲と消ゆる

「泰山」は、中国山東省にあり、古来、
聖山として崇められた。その泰山が
砥石のように小さくすり減つてなく
なつても、という比喩。

桑梓に見えじと

故郷には帰らない

遠 征 歌

あーわきいづる かいこのじょう ひゃくさんじゅうよねんの いにしへに

The first system of the musical score consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The treble staff contains the melody with lyrics written below it. The bass staff contains a piano accompaniment of chords. The key signature has one flat (B-flat), and the time signature is common time (C). There are two fermatas (V) above the treble staff, one at the end of the second measure and one at the end of the fourth measure.

いぶはまよう ちゅうげんの かようのにーわに しかおいて

The second system of the musical score consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The treble staff contains the melody with lyrics written below it. The bass staff contains a piano accompaniment of chords. The key signature has one flat (B-flat), and the time signature is common time (C). There is one fermata (V) above the treble staff at the end of the third measure.

遠 征 歌

一、 嗚呼湧き出づる懐古の情

百三十余年のいにしへに

平蕪へいぶは迷ふ中原の

華陽の庭に鹿逐ひて

平蕪

雑草の生い茂った野原

二、 移り変はれば春秋の

秋とは来れども我が校の

中原に鹿を逐う

天下を争う

赤き血潮の桜花

尽きぬ栄華に散りやらず

春秋

歳月

三、 かかる誉を身に受けて

千里の外ほこに銚取りて

丹心

まごころ

戦ふ友の鉄腕を

吹くや異郷いきようの風重し

四、 されど汝なが持つ肉と血は

華陽の健児一千の

青史の光

歴史の光

校を愛する丹心たんしんの

鉄より堅き凝結ぞ

五、 奮へ奮へいざ奮へ

骸骨砕け肉破れ

屍かばねとなるも我が校の

青史の光を守れよや

宣 戦 の 歌

た た か わ ん か な とき いた る た た か わ ん か なー とき いた る

The first system of the musical score consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one flat (B-flat) and a common time signature (C). It contains a melody with lyrics: 'た た か わ ん か な とき いた る た た か わ ん か なー とき いた る'. The lower staff is in bass clef with the same key signature and time signature, providing a harmonic accompaniment with chords and moving lines. There are 'v' markings above the second and fourth measures of the upper staff.

た た か わ ん か な とき いた る た た か わ ん か なー とき いた る

The second system of the musical score continues the piece. It features the same two-staff structure as the first system. The lyrics are: 'た た か わ ん か な とき いた る た た か わ ん か なー とき いた る'. The musical notation and accompaniment are consistent with the first system. A 'v' marking is present above the second measure of the upper staff.

宣 戦 の 歌

戦はんかな時期とき到る

戦はんかな時期到る

戦はんかな時期到る

戦はんかな時期到る

奮え岐高の熱腸児

mf

ふ る へ ぎ こ う の ね っ ち ょ う じ

つ と め よ か よ う の け ん だ ん じ

mp

い - ま や わ れ ら の せ い え い に

て - き の か た め は や ぶ れ た り

mf

し ゆ う を け つ す は

こ の と - き - ぞ -

f

い さ お を た つ る は

こ の と - き - ぞ -

奮へ岐高の熱腸児

奮^{ふる}へ岐高の熱腸児

努めよ華陽の健男児

今や我等の精銳に

敵の固めは破れたり

雌雄を決すは此の時ぞ

功^{いさお}を樹つるは此の時ぞ

(二回連続)

古今興亡百三十余年

こーこん こうぼう ひゃくさんじゅう よねん

れきしの あーとを しのばせて

いてん しかいに そびえ たつ

のうびへ いやの いかくに

そくせい よくかい ひくくみる

かようけんじの いきたかし

古今興亡百三十余年

一、古今興亡百三十余年
歴史の跡を偲ばせて

一天四海に聳え立つ
濃尾平野の一角に

俗世慾界低く見る
華陽健児の意気高し

一天四海

天下

二、沖つ荒潮あるるとも
凄^{せい}電^{でん}地をば砕くとも

見よ我が骨の硬きとき
見よ我が息のかよふとき

凄電

激しいかずち

照して世々に力あり
ああ一千の健児団

三、敵軍如何に強くとも
打てば破れぬことやある

この黒鉄^{くろがね}の腕こぶし
振へば^{そうしゅ}双手声うなる

血潮に染めし応援旗
華陽健児の敵いづこ

花 吹 雪

ちるべきとき ちらざれば ちるにもま-さるはじあらむ

mp f

This system contains the first two staves of music. The vocal line is in the upper staff, and the piano accompaniment is in the lower two staves. The key signature has one flat (B-flat) and the time signature is common time (C). The lyrics are written below the vocal line. The piano part features a melody in the right hand and chords in the left hand. Dynamics include *mp* and *f*.

は-なのふぶきと こうのため いで や いさぎよく

mf ff

This system contains the next two staves of music. The vocal line continues in the upper staff, and the piano accompaniment continues in the lower two staves. The key signature and time signature remain the same. The lyrics are written below the vocal line. The piano part continues with a melody in the right hand and chords in the left hand. Dynamics include *mf* and *ff*.

花 吹 雪

一、散るべき時に散らざれば 散るにもまざる恥あらむ

花の吹雪と校のため いでやいさぎよく

二、いづれも年は若木なる 盛りの花を散らさむも

みなこれ母校の為にこそ 奮へ 奮へ

三、校の誉ほまれを生命いのちにて 戦ふ吾等は正せいなれや

正義に刃向ふ敵ぞなき 奮へ 奮へ

四、鍛へ鍛へし吾が腕の 今日けふは空さへ冴えわたり

暴風あらしの雲は跡たちぬ 嬉し 嬉し

五、哀れなる哉井底せいでいの 蛙かわずに等しき汝等よ

今日こそ見せん我が校の 腕の冴えを

征 下 軍 歌

みよーれいろうのいなばやま
さんれいとわにたかくして
ありしむかしのえいゆうの
でんとううけしけんじらが
ゆうべのこじょうを
あおぎては
ぎぎせんしゅうのいろふかし

征下軍歌

一、見よ玲瓏の稲葉山

山靈永久に高くして

玲瓏
輝く

ありし昔の英雄の

伝統受けし健児等が

巍々千秋
長い年月

夕の古城を仰ぎては

巍々千秋の色深かし

不羈卓犖
この上なく優れた

二、麓にそそる華陽校

不羈卓犖の大丈夫が

朝暾

朝日

胸に秘めたる青雲の

のぞみの光り辿りつつ

千城深く攻め入らば

吾事いかで成らざらん

征矢燦爛

光の線が輝き

三、朝暾東にたださして

黄金の征矢燦爛と

金鼓堂々首途せん
陣太鼓を打ち鳴らして出陣する

常盤の松に映ゆる時

いざ一千の健男子

血潮の赤旗押し立てて

金鼓堂々首途せん

渺茫の

果てしない

四、生死の境渺茫の

荒野を馳する猛者ならば

標悍

荒々しく強い

根城は固し一千の

偉丈夫意気に感じては

標悍決死百万の

精騎も遂に破るべし

修羅の巷

争いの場

五、修羅の巷に戦ひて

たそがれわたる残塁に

鉄腕撫して起てる時

栄光漲る顔に

残塁

残る砦

ああ〇〇部の健男子

勝鬨高くあげんかな

応援団々歌 (その一)

♩ = 96

mf きょうこそはれのひあげずやかちどきを *f* かけて

かけて かけて かけて *ff* かけて や かけて

応援団々歌 (その二)

一、今日こそ晴れの日
あげずや勝^{かちどき}鬨を

勝て勝てくくく
勝てや勝て

二、岐阜市のシンボル
誇りは金華山

立て立てくくく
立てや立て

三、長良の川水
流れて止まらず

行け行けくくく
行けや行け

四、輝くこの旗
我等の此の意気を

振れ振れくくく
振れや振れ

岐阜高等女学校校歌

作詞 佐々木 信 綱
作曲 下 総 皖 一

一、あゝ

すめらみ 国^{くに}栄^{さか}ゆる 御代^{みよ}に

われら 処女^{をとめ}

生れあひたる 幸^{さいはひ}

胸の境と日々にあふぐ

教^{おし}への道^{みち}の 勅語^{しことり}

三、聞け

長良川の瀬^せの音^とは清し

われら 処女^{をとめ}

清く心をみがかむ

はげみいそしみ

操^{みさを}かたく

明るき微笑^{あまひ}うつくしく

二、見よ

稲葉山の姿は高し

われら 処女^{をとめ}

高く心を保たむ

国の御^み為^{ため}に人の為^{ため}に

力のかぎりつくさばや

すめら
天皇

松 小 姫



まなび—の にわの ひめこまつ
めぐみ—の つゆに うるほひて



ちよのみ さおに たぐへつ つ —
みどりゆ かしき ひめこまつ —



う—えし そのひの めぐり—きぬ —
い—よよ ますます しげる—べし —



いざや—い わ わん もろとも に —
ちよに—や ち よに さかえな ん —

姫 小 松 (創立記念日の歌)

作詞 柏木 亀三
作曲 伊藤 栄治

(一) 学びの庭の姫小松

千代の操にたぐへつゝ

植ゑしその日のめぐりきぬ

いざや祝はん諸共に

(二) 恵みのつゆにうるほひて

みどりゆかしき姫小松

いよよますますしげるべし

千代に八千代にさかえなん

たぐへつゝ
象徴として

岐高女同窓会の歌



1. かーへる かーりーがね くる つば め
 2. マナビノ マードノー アケク レニ
 3. すーざし そーのーひを しのび つ



も と を わ す れ ぬ と も が き の
 コ コ ロ カ タ リ シ ハ ナ ノ カ ゲ
 い ま の さ ま を も か た り つ



し る と しーらーぬ の へだてなー く
 ミ ヲ バ ヤー スーメシ マツノモー ト
 す ゑ を ちーかーひ て もろともー に



つ ど ふ も う れ し こ のー ま ど る
 オ モ ヒ デ オ ホ キ ソ ノー カ ミ ヤ
 た の し き け ふ を す じー さ な ん

岐高女同窓会の歌

作詞 柏木 亀三
作曲 伊藤 栄治

一、かへる雁がね来る燕

元をわすれぬ友垣の

知ると知らぬの隔てなく

集ふも嬉し此の会合

二、学びの窓のあけくれに

心語りし桜花の蔭

身をば休めし老松の下

思ひ出多き当時や

三、過ぎし其日を偲びつゝ

現今の様をも語りつゝ

未来を誓ひて諸共に

楽しき今日を過ぎなん

みむか ねらが かかや らんく みまぶ ねらん 一へに こせい とりまよ はなが ndera

かかや ははは きのし のし のし 一へに たらた ちまき ちまき 一へに のし のし 一へに たらた

のし のし びかす るむい きむい 一へに ぼす(一) うんろ きつて うはす たけす おおむ うんろ ちま

一、みどりをそめて 朝の日が

高い梢に ゆれている

嶺から嶺へ 小鳥もよんで

岐阜は木の国 山の国

伸びる希望を うたおうよ

二、つづく平野の 雲遠く

虹の七いろ もえている

岐阜県民の歌

作詞 永縄 半助
作曲 服部 正

Allegro Moderato

Vocal

Piano

mf

mf 爽やかに流れて

みつめ どり をく そへ めい 一 あく さ ひ が
 い しよ し せ や や か も お ぐ
 一 一 一 一 き の せ と お くり

た か い こ ず え に ゆ れ い る
に じ の な な い ろ も え が い る
は な も も な じ も も け が り も

三、名所史蹟に 風かおり

村から街へ 生氣に映えて
岐阜は野の国 幸の国
力むすんで はげもうよ

花ももみじも 鶉かがりも

かがやく文化に 色そえながら

岐阜は詩の国 水の国

はずむ心で 進もうよ

平成29年6月発行

岐阜県立岐阜高等学校
同窓会

〒500-8889

岐阜市大縄場3丁目-1

TEL <058> 251-1234 (代)

